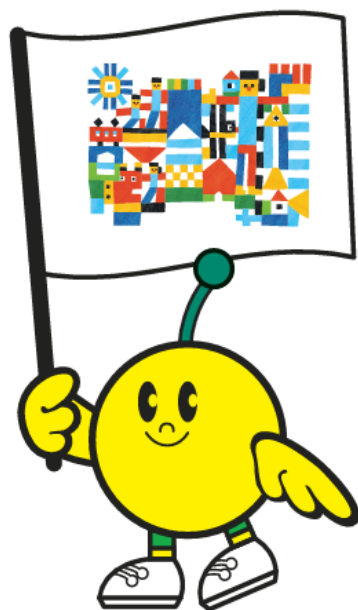
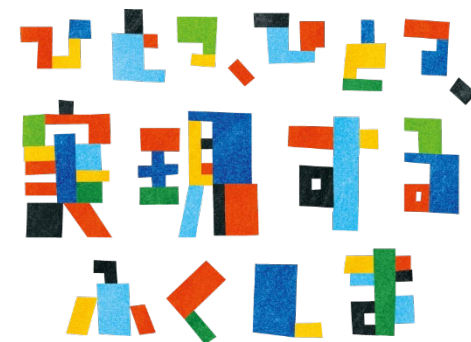


ふくしまの復興に向けた取組等について



2022年6月6日
福島県



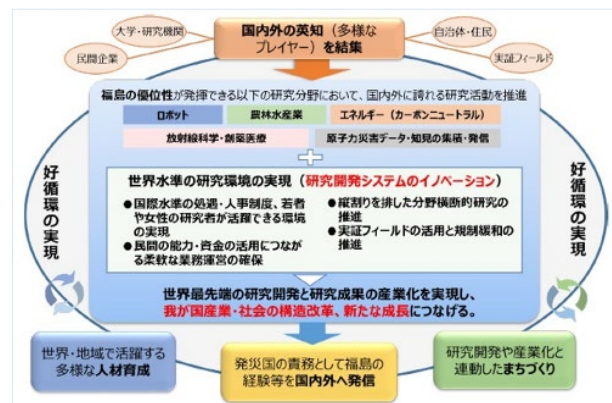


- 震災・原発事故から11年が経過したが、複合災害は現在進行形であり、福島復興はいまだ途上。
- このような中、令和元年東日本台風や令和3年福島県沖地震に加え、本年3月にも福島県沖を震源とする地震の被害に見舞われるなど、度重なる困難に直面し、県民の心は折れかねない状況。
- 復興に向けては、今後も困難で長い闘いが続く一方、震災から10年という節目の年が過ぎ、風化が進むことも懸念。

◎ 帰還困難区域の現状（県道391号双葉町近辺）



◎ 福島国際研究教育機構



◎ 多核種除去設備（ALPS）等処理水の処分



- 復興のステージが進むにつれて生じる新たな課題も含め、複雑・多様化する課題に対応するため、現場主義を徹底し、課題に応じたきめ細かな対応が不可欠。
- 特に、国におかれては、
 - 特定復興再生拠点区域外への対応
 - 福島国際研究教育機構の具現化
 - ALPS処理水の処分に係る責任ある対応

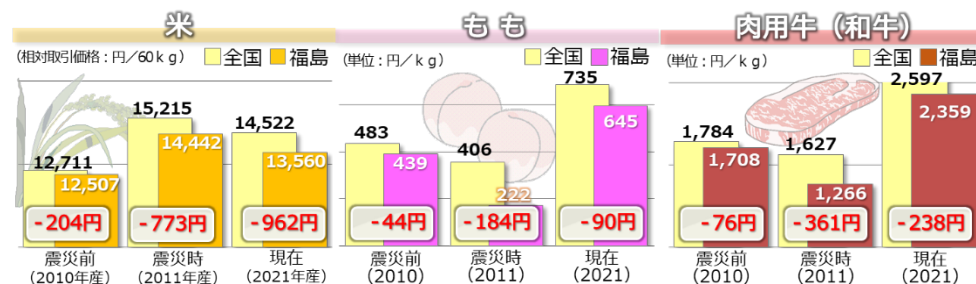
などの課題について、引き続き、必要な取組を進めていただきたい。

- 特定復興再生拠点区域について、今月 12 日に葛尾村において、帰還困難区域としては初めて居住に向けた避難指示解除を予定しており、大熊町及び双葉町においても、避難指示解除に向けた取組が進められるなど、復興に向けた歩みは着実に前進。
- 特定復興再生拠点区域外については、昨年 8 月に示された政府方針に基づき、住民の意向確認や除染の手法・範囲等の具体化、帰還意向のない住民の土地・家屋等の扱いなどの残された課題について、地元自治体の意向を十分に踏まえながら、帰還困難区域全ての避難指示解除に向けて、国が最後まで責任を持って取り組んでいただきたい。
- 福島イノベーション・コースト構想を更に発展させるため、福島国際研究教育機構が司令塔機能としての役割を果たすことが重要。
- 福島ロボットテストフィールドや東日本大震災・原子力災害伝承館など、これまで整備した拠点を活用し、産業創出や人材育成、交流人口の拡大に一層取り組んでいく必要。



風評払拭・風化防止対策

◎ 主な農産物の価格の推移



◎ 県産農産物の輸出促進



香港における県産農産物の展示・販売 (R4.2)

◎ 首都圏等での情報発信



TOKYO TORCH park (東京駅日本橋口前) の赤べこオブジェ

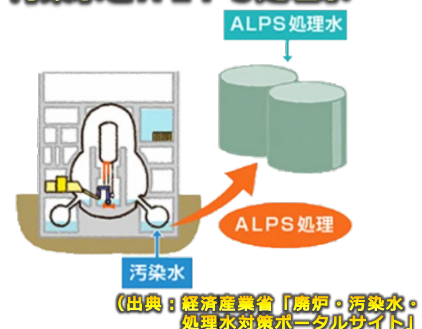
原子力発電所事故への対応

◎ 東京電力福島第一原子力発電所の現状



(写真提供: (株) 東京電力)

◎ 汚染水とALPS処理水



◎ 2045年までの除去土壌等の県外最終処分



土壌貯蔵施設 (写真提供: 環境省)

- 55の国と地域で行われていた県産食品の輸入規制について、現在は14に縮小。本年2月の台湾での規制緩和に続き、5月にはイギリスが輸入規制の撤廃を表明したところであり、更なる輸入規制の撤廃に向けた働き掛けや、正確な情報発信に取り組んでいく必要。
- ALPS処理水の問題は、福島だけではなく日本全体の問題。これまで風評払拭に向けて懸命に取り組んできた県民の努力が水泡に帰すことのないよう、国におかれては、昨年末に策定された行動計画に基づき、万全な対策に取り組んでいただきたい。
- 福島復興の大前提である東京電力福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所の廃炉作業の完遂には、今後も長い期間を要する。安全かつ着実な実施が不可欠。
- 中間貯蔵施設について、国は責任を持って、2045年までの県外最終処分に向け、最終処分地の選定などの具体的な方針・工程を早期に明示し、一つ一つの取組を目に見える形で進めていただきたい。



ふくしま復興の更なる推進に向けて

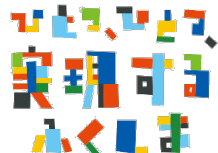
4

新しい福島県総合計画

●県のスローガン

ひとつ、ひとつ、
実現する ふくしま

P D C A マネジメントサイクルの確
実な実行や、根拠に基づく政策立案
(E B P M) の考え方を重視した事
業の企画立案など課題を一つ一つ解
決し将来の姿を目指す



●大事にしたい視点≡行動規範

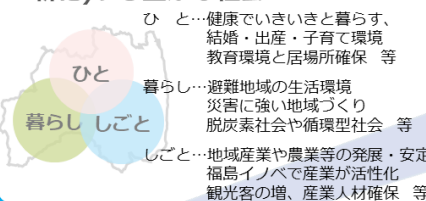
<ふくしまの現在地>

- ▶ 復興・再生は着実に進展
- ▶ 一方、避難地域の再生や
風評・風化など課題は山積
- ▶ また、人口減少も大きな
課題となっている
- ▶ 加えて、自然災害、新型
コロナウイルス感染症などの
幾重もの困難に見舞われ
ている



<将来の姿>

「ひと」「暮らし」「しごと」
が調和しながらシンカ(深化、進化、
新化)する豊かな社会



令和12 (2030) 年度

●基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさ
あふれるふくしまを
共に創り、つなぐ

30年先の
将来の姿

●県づくりの理念 (将来の姿の実現に向かう根本的な考え方)

- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会(県)づくり…やさしさ
- 変化や危機にしなやかで強靱な地域社会(県)づくり…すこやかさ
- 魅力を見だし育み伸ばす地域社会(県)づくり…おいしさ

県民の皆さんの意見 (30年後の未来を見据え)

- ▶ 総合計画審議会からの意見
- ▶ 市町村からの意見
- ▶ 対話型ワークショップの意見
- ▶ 地域懇談会の意見
- ▶ 県民世論調査・アンケート



SDGsの18番目の目標として

「複合災害からの福島復興」

を加え、世界に向けて発信

- ▶ 計画に掲げる指標設定を前計画196項目から**276項目 (4割増)**へ

主な政策と成果指標 (抜粋)

全国に誇れる健康長寿県へ

健康寿命

現況値 (H28)

男性 71.54歳

女性 75.05歳

目標値 (R12)

男性 $\nearrow$ 75.60歳

女性 $\nearrow$ 77.85歳

環境と調和・共生する 県づくり

温室効果ガス排出量 (2013年度比)

現況値 (H30)

Δ 19.2%

目標値 (R12)

$\searrow$ Δ 50%

再生可能エネルギー先駆け の地の実現

再生可能エネルギー導入量

現況値 (R2)

43.4%

目標値 (R12)

$\nearrow$ 70.0%

- 本年4月からスタートした新しい「福島県総合計画」においては、取組の成果を示す指標の数を大幅に増やし、目標の実現に向けて挑戦を続けるとともに、福島復興再生特別措置法に基づく「福島復興再生計画」の取組などを着実に実行し、その成果を一つ一つ形にしていこうと、皆さんに復興を実感していただくことが重要。
- また、未曾有の複合災害からの復興と急激な人口減少に直面する福島は、SDGsそのもの。福島オリジナルの18番目の開発目標として「複合災害からの福島復興」を加え、世界に向けて発信。